

精神 01 : 精神医学とは

日時 : 4 月 8 日 (火) 3 時限

担当者 : 桑原 斉(神経精神科・心療内科)

内容 :

1. 多様な精神医学の方法論を説明できる。
2. 精神医学の診断基準を説明できる。
3. 精神医学の分類を説明できる。

キーワード :

ユニット :

生物学的精神医学、精神病理学、操作的診断基準、サブスペシャリティ、診断分類、精神系

★コアカリ :

D-15-1, D-15-3

教科書 :

◆ 標準精神医学 第 9 版 医学書院 p5-28

予習 :

指定された教科書の p5-28 に目を通しておく。(30 分)

復習 :

指定された教科書の p5-28 を再読する。(30 分)

精神 02 : 精神機能とその異常

日時 : 4 月 10 日 (木) 1 時限

担当者 : 新井 久稔(神経精神科・心療内科)

内容 :

1. 精神機能からみた意識障害を説明できる。
2. 幻覚を列挙できる。
3. 記憶障害を列挙できる。
4. 妄想を列挙できる。
5. 思考障害を列挙できる。

キーワード :

ユニット :

幻覚、記憶、妄想、思考

★コアカリ :

D-15-1, D-15-2 意識障害

国試出題基準 :

症候

教科書 :

◆ 標準精神医学 第 9 版 医学書院 p49-64

予習 :

指定された教科書の p49~64 第 3 章「精神機能とその異常」に目を通しておく。(30 分)

復習 :

指定された教科書の p49~64 第 3 章「精神機能とその異常」を確認しながら、精神機能の障害と、その障害と関連する精神疾患とを組み合わせ理解する。(30 分)

精神 03 : 精神医学的診察と診断 (面接・脳波・画像)

日時 : 4 月 14 日 (月) 1 時限

担当者 : 渡邊 さつき (神経精神科・心療内科)

内容 :

1. 面接で聴取すべきことを列挙できる。
2. 面接を円滑に進める技法を説明できる。
3. 面接において心がけるべきことを説明できる。
4. 脳波検査の正常と異常を説明できる。
5. 各検査法の意義と適応が説明できる。

キーワード :

ユニット :

面接技法、頭部画像検査

★コアカリ :

D-15-1, D-15-2 精神科面接

国試出題基準 :

医療面接、主要症候 (心理・精神機能)、脳脊髄液検査、脳波検査、画像検査

教科書 :

◆ 標準精神医学 第 9 版 医学書院 p77-119

予習 :

指定された教科書の p77-119 を読む。(30 分)

復習 :

講義資料を確認する。(30 分)

精神 04 : 精神医学的診察と診断 (検査 2 神経心理・心理検査)

日時 : 4 月 14 日 (月) 2 時限

担当者 : 小林 清香 (総セ 神経精神科)

内容 :

1. 心理検査の意義が説明できる。
2. 心理検査の目的が説明できる。
3. 心理検査の種類を列挙できる。
4. 知能検査の代表的なものとその特徴が説明できる。
5. 投影法と質問紙法の違いが説明できる。

キーワード :

ユニット :

知能検査、人格検査、神経心理学的検査

★コアカリ :

D-15-1 心理学的検査法、質問紙法

国試出題基準 :

気分障害、統合失調症、認知症、知的障害

教科書 :

◆ 標準精神医学 第 9 版 医学書院 P119-143

予習 :

指定された教科書の P119-143 に目を通す。(30 分)

復習 :

各種心理検査、神経心理学的検査の特徴と実施する意義について整理する。(30 分)

精神 05 : 精神発達と発達障害 (神経発達症)

日時 : 4 月 14 日 (月) 3 時限

担当者 : 桑原 斉 (神経精神科・心療内科)

内容 :

1. 精神発達について発達理論を踏まえて説明できる。
2. 知的能力障害について説明できる。
3. 限局性学習症について説明できる。
4. 自閉スペクトラム症について説明できる。
5. 注意欠如・多動症について説明できる。
6. チック症 (トゥレット症) について説明できる。
7. 小児期発達流暢症 (吃音) について説明できる。

キーワード :

ユニット :

ライフステージ、知的障害<精神遅滞>、特異的発達障害 (限局性学習症)、広汎性発達障害 (自閉スペクトラム症)、多動性障害 (注意欠如・多動症)、チック障害、吃音{症}

★コアカリ :

D-15-3

国試出題基準 :

Ⅱ-5-A、Ⅱ-5-B、Ⅱ-5-C、Ⅱ-5-D、Ⅱ-5-I、Ⅱ-5-J

教科書 :

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p65-76、p251-266 (Ⅰ 児童期の診察の留意点、Ⅱ 発達障害)

予習 :

指定された教科書の P65-76、P251-266 を読んでおく。(30 分)

復習 :

指定された教科書の P65-76、P251-266 を見返す。(30 分)

精神 06 : 精神科治療学 (身体・薬物療法)

日時 : 4 月 25 日 (金) 4 時限

担当者 : 松尾 幸治 (神経精神科・心療内科)

内容 :

1. 精神科の身体療法について説明することができる。
2. 抗精神病薬の薬理作用と効果・副作用について説明することができる。
3. 抗うつ薬の薬理作用と効果・副作用について説明することができる。
4. その他の向精神薬の薬理作用と効果・副作用について説明することができる。
5. ニューロモジュレーション治療について説明することができる。

キーワード :

ユニット :

抗精神病薬 (Antipsychotics)、抗うつ薬 (Antidepressants)、気分安定薬 (Mood stabilizers)、抗不安薬 (Anxiolytics)、ニューロモジュレーション治療 (Neuromodulation therapies)

★コアカリ :

D-15-3

国試出題基準 :

Ⅱ 精神・心神医学的疾患

教科書 :

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 P145-169

予習 :

指定された教科書の P145-169 に目を通しておく。(30 分)

復習：

授業で用いた配付資料を参照しながら指定された教科書の P145～P169 を再読する。(45 分)

精神 07：コンサルテーション・リエゾン精神医学

日時：5月1日（木） 2 時限

担当者：大西 秀樹(国セ 精神腫瘍科)

内容：

1. リエゾン精神医学の意義について説明できる。
2. チーム医療について説明できる。
3. 身体疾患患者に多い精神疾患について説明できる。
4. 身体疾患を有する患者の精神状態の評価、診断および治療について説明できる。
5. 身体疾患を有する患者家族の精神状態について説明できる。

キーワード：

ユニット：

リエゾン精神医学、精神腫瘍学、せん妄、うつ病、適応障害

★コアカリ：

診断、治療、コンサルテーションリエゾン精神医学

国試出題基準：

D-15-1, D-15-2, D-15-3 せん妄、気分障害、重度ストレス反応および適応障害

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書 p185-196

参考書：

◆ 当日講義内で紹介する

予習：

指定された教科書の該当ページを読んでおくこと（30 分）

復習：

ハンドアウトの内容をみて、指定された教科書の該当ページに目を通すこと（30 分）

精神 08：精神科治療学（精神療法）

日時：5月12日（月） 4 時限

担当者：石田 真弓(国セ 精神腫瘍科)

内容：

1. 精神療法の定義・位置づけ、適応等の基本的枠組みを理解し説明することができる。
2. 来談者（クライエント）中心療法の基本概念、基本的方法、適応について説明することができる。
3. 精神力動的な精神療法の基本概念、基本的方法、適応について理解し説明することができる。
4. 認知行動療法の基本概念、基本的方法、適応対象、適応について説明することができる。
5. 行動療法の基本概念と代表的な治療技法、適応について説明することができる。

キーワード：

ユニット：

来談者（クライエント）中心、認知行動療法、行動療法、心理教育、SST

★コアカリ：

D-15-1 精神科面接、治療

国試出題基準：

気分障害、適応障害

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p169-183

参考書：

- ◆ 当日講義内で紹介する

予習：

指定された教科書の該当ページを読んでおくこと（30分）

復習：

指定された教科書の該当ページと講義内容を合わせて復習しておくこと（30分）

精神 09：精神医療と社会 1

日時：5月13日（火） 1時限

担当者：桑原 斉（神経精神科・心療内科）

内容：

1. 精神保健の概念について説明できる。
2. 精神保健福祉法について概略を説明できる。
3. 精神保健指定医の役割について説明できる。
4. 精神保健福祉法における入院形態を列挙し、説明できる。
5. 精神保健福祉法における人権擁護のための仕組みについて説明できる。

キーワード：

ユニット：

精神保健福祉法、精神保健指定医、精神医療審査会

★コアカリ：

D-15-1

教科書：

- ◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p197-206、p231-237

予習：

指定された教科書の該当ページに目を通しておく（30分）

復習：

指定された教科書の該当ページを再読する（30分）

精神 10：精神医療と社会 2

日時：5月16日（金） 1時限

担当者：黒木 規臣（神経精神科・心療内科）

内容：

1. 地域精神医療の概念や歴史の概略を説明することができる。
2. 精神保健・医療・福祉サービス資源の概要について説明することができる。
3. 精神科リハビリテーションのサービスモデル、支援プログラムの概略を説明することができる。
4. 「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の概略を説明することができる。
5. 災害精神医学の概念と災害時の精神保健医療活動の概略を説明することができる。

キーワード：

ユニット：

地域精神保健（Community Mental Health）、地域精神医療サービス（Community Psychiatric Services）、精神科リハビリテーション（Psychiatric Rehabilitation）、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム、災害精神医学（Disaster Psychiatry）

★コアカリ：

D-15-1

教科書：

- ◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p206-231

予習：

指定された教科書の p206-231 を通読する。(30 分)

復習：

「精神医療と社会 1」で学ぶ内容を含む指定された教科書の第 8 章を精読する。(30 分)

精神 11：児童期の精神疾患と生活機能の障害

日時：5 月 19 日（月） 4 時限

担当者：桑原 斉(神経精神科・心療内科)

内容：

1. 素行症について説明できる。
2. 選択性緘黙について説明できる。
3. 不登校について説明できる。
4. 非行について説明できる。
5. 被虐待児症候群について説明できる。
6. 生活の場と精神保健について説明できる。

キーワード：

ユニット：

素行障害、選択性緘黙、不登校、非行、被虐待児症候群、心理社会的要因

★コアカリ：

D-15-2、D-15-3

国試出題基準：

Ⅱ-5-E、Ⅱ-5-F、Ⅱ-5-G、Ⅱ-5-H、Ⅱ-5-K

教科書：

◆ 標準精神医学 第 9 版 医学書院 P198-202 (B 生活の場と精神保健)、P266-270 (Ⅲその他の児童期の精神疾患)、P382-385 (E 反応性アタッチメント症、F 脱抑制型対人交流症)

予習：

指定された教科書の P198-202 (B 生活の場と精神保健)、P266-270 (Ⅲその他の児童期の精神疾患)、P382-385 (E 反応性アタッチメント症、F 脱抑制型対人交流症)を読んでおく。(30 分)

復習：

指定された教科書の P198-202 (B 生活の場と精神保健)、P266-270 (Ⅲその他の児童期の精神疾患)、P382-385 (E 反応性アタッチメント症、F 脱抑制型対人交流症)を見返しておく。(30 分)

精神 12：司法精神医学

日時：5 月 20 日（火） 5 時限

担当者：安藤 久美子(神経精神科・心療内科)

内容：

1. 司法精神医療に関連した法律（心神喪失者等医療観察法）について簡単に説明できる。
2. 刑事精神鑑定における責任能力、心神喪失と心神耗弱の用語の違いを理解する。
3. 成年後見制度の目的を理解し、後見、保佐、補助の違いを説明できる。
4. 精神障がい者に対する社会からのスティグマについて知る。

キーワード：

ユニット：

精神鑑定 expert testimony、刑事責任能力 criminal responsibility、心神喪失者等医療観察制度（医療観察法）Medical Treatment and Supervision Act、成年後見制度 Adult guardianship system

★コアカリ：

D-15-1

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p237-244

参考書：

◆ 司法精神医学5（シリーズ） 司法精神医療 中山書店

予習：

1. 普段から刑事事件のニュースなどで、「精神鑑定」というキーワードが出てこないか 注意しておく。（どんな事件で精神鑑定が行われているのかを知っておくとよい）
2. 指定された教科書「標準精神医学第9版 医学書院の「司法精神医学」の章を読んでおく。（20分）

復習：

1. 心神喪失者等医療観察法の歴史、対象となる者、対象となる行為について確認する。
2. 講義資料内にある刑事責任能力の判断の種類（心神喪失、心神耗弱）について理解する。
3. 講義内で説明した成年後見制度の目的や、後見、保佐、補助の区分について確認する。

精神 13：統合失調症 1

日時：5月22日（木） 2時限

担当者：吉益 晴夫（総セ 神経精神科）

内容：

1. 精神病性障害に含まれる疾患を列記できる。
2. 統合失調症の歴史について説明できる。
3. 統合失調症の陽性症状について説明できる。
4. 統合失調症の陰性症状について説明できる。

キーワード：

ユニット：

幻覚、妄想、思考障害、認知機能障害

★コアカリ：

D-15-3 統合失調症

国試出題基準：

統合失調症、妄想性障害、急性一過性精神病性障害＜非定型精神病＞

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p271-295

予習：

指定された教科書の p271-295 に目を通しておく。（30分）

復習：

指定された教科書の p271-295 を再読する。（30分）

精神 14：統合失調症 2

日時：5月23日（金） 4時限

担当者：吉益 晴夫（総セ 神経精神科）

内容：

1. 統合失調症のドーパミン仮説について説明できる。
2. 統合失調症の薬物療法について説明できる。
3. 統合失調症の心理社会的療法について説明できる。
4. 統合失調症の病型（妄想型、破瓜（はか）型、緊張型など）の違いについて説明できる。

キーワード：

ユニット：

ドパミン仮説、抗精神病薬、作業療法

★コアカリ：

D-15-3 統合失調症

国試出題基準：

統合失調症、妄想型統合失調症、破瓜型統合失調症、緊張型統合失調症

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p271-295

予習：

指定された教科書の p271-295 に目を通しておく。(30 分)

復習：

指定された教科書の p271-295 を再読する。(30 分)

精神 15：うつ病・双極性障害 1

日時：5月23日（金） 5時限

担当者：松尾 幸治（神経精神科・心療内科）

内容：

1. うつ病と双極性障害の症状について説明できる。
2. うつ病と双極性障害の診断について説明できる。
3. うつ病・双極性障害と身体疾患との関連について説明できる。
4. うつ病・双極性障害の治療について説明できる。
5. うつ病・双極性障害の病因・病態について説明できる。

キーワード：

ユニット：

うつ病 (Depression)、躁病 (Mania)、抗うつ薬 (Antidepressants)、気分安定薬 (Mood stabilizers)、第2世代抗精神病薬 (Second-generation antipsychotics)、モノアミン (Monoamine)

★コアカリ：

D-15-3

国試出題基準：

II-2-A 気分（感情）障害

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p297-332

予習：

指定された教科書の p297-332 に目を通しておく。(30 分)

復習：

授業で用いた配付資料を参照しながら指定された教科書の P297～P332 を再読する。(45 分)

精神 16：うつ病・双極性障害 2

日時：5月27日（火） 5時限

担当者：松尾 幸治（神経精神科・心療内科）

内容：

1. うつ病と双極性障害の症状について説明できる。
2. うつ病と双極性障害の診断について説明できる。
3. うつ病・双極性障害と身体疾患との関連について説明できる。
4. うつ病・双極性障害の治療について説明できる。

5. うつ病・双極性障害の病因・病態について説明できる。

キーワード：

ユニット：

うつ病 (Depression)、躁病 (Mania)、抗うつ薬 (Antidepressants)、気分安定薬 (Mood stabilizers)、第2世代抗精神病薬 (Second-generation antipsychotics)、モノアミン (Monoamine)

★コアカリ：

D-15-3

国試出題基準：

II-2-A 気分 (感情) 障害

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p297-332

予習：

指定された教科書の p297-332 に目を通しておく。(30 分)

復習：

授業で用いた配付資料を参照しながら指定された教科書の P297～P332 を再読する。(45 分)

精神 17：神経症性障害 1

日時：5月29日 (木) 5 時限

担当者：吉益 晴夫 (総セ 神経精神科)

内容：

1. 神経症性障害に含まれる疾患を列記できる。
2. パニック症の症状を説明できる。
3. パニック症の治療について説明できる。
4. 強迫観念と強迫行為について説明できる。
5. 強迫観念と妄想の違いを説明できる。

キーワード：

ユニット：

扁桃体

★コアカリ：

D-15-3 不安障害

国試出題基準：

パニック障害、不安障害、強迫性障害

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p333-346、p359-369

予習：

指定された教科書の p333-346、p359-369 に目を通しておく。(30 分)

復習：

指定された教科書の p333-346、p359-369 を再読する。(30 分)

精神 18：神経症性障害 2

日時：5月30日 (金) 5 時限

担当者：吉益 晴夫 (総セ 神経精神科)

内容：

1. 解離性健忘の症状を説明できる。
2. 解離性同一症について説明できる。
3. 変換症について説明できる。

4. 変換症、作為症、詐病の違いを説明できる。
5. 心気症と心気妄想の違いを説明できる。

キーワード：

ユニット：

解離性同一症、作為症、詐病

★コアカリ：

D-15-3 解離性障害

国試出題基準：

解離性〈転換性〉障害、心気症

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p346-358

予習：

指定された教科書の p346-358 に目を通しておく。(30 分)

復習：

指定された教科書の p346-358 を再読する。(30 分)

精神 19：心的外傷およびストレス因関連症

日時：6月2日（月） 3時限

担当者：安田 貴昭(総セ 神経精神科)

内容：

1. 心的外傷後ストレス症(PTSD)の4つの主要な症状を挙げることができる
2. PTSDと複雑性PTSDの違いを述べることができる
3. ASD(急性ストレス症)とPTSD(心的外傷後ストレス症)の違いを述べることができる
4. 心的外傷およびストレス因関連症の治療について概説できる
5. 適応反応症の概念を説明できる

キーワード：

ユニット：

心的外傷後ストレス症、複雑性心的外傷後ストレス症、急性ストレス症、適応反応症

★コアカリ：

D-15-3 ⑦

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p371-385

予習：

指定教科書の該当ページを、興味を引かれる箇所に印をつけながら一通り読んでおく。

復習：

予習で印をつけた箇所を読み返し、理解を深める。

精神 20：摂食障害

日時：6月6日（金） 1時限

担当者：松岡 孝裕(神経精神科・心療内科)

内容：

1. 摂食障害の分類を説明できる。
2. 神経性やせ症/神経性無食欲症の症候を列挙できる。
3. 神経性やせ症/神経性無食欲症の治療について説明できる。
4. 神経性過食症/神経性大食症の症候を列挙できる。
5. 神経性過食症/神経性大食症の治療について説明できる。

キーワード：

ユニット：

肥満への恐怖(fear of gaining weight)、ボディイメージのゆがみ(distorted body image)、むちゃ食い(binge-eating)、自己誘発嘔吐(self-induced vomiting)

★コアカリ：

D-15-3) 摂食障害(Eating disorder)

国試出題基準：

神経性無食欲症(Anorexia nervosa)、神経性過食症(Bulimia nervosa)

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p387-395 第16章

予習：

指定された教科書の p387-395 第16章「摂食障害」に目を通しておく。(20分)

復習：

講義配布資料を見直しておく。(20分)

精神 21：睡眠一覚醒障害

日時：6月6日(金) 2時限

担当者：松岡 孝裕(神経精神科・心療内科)

内容：

1. 睡眠障害の分類を説明できる。
2. 不眠症について症候・治療を説明できる。
3. 睡眠関連呼吸障害群、中枢性過眠症群について症候・検査所見・治療を説明できる。
4. 概日リズム睡眠一覚醒障害群について症候・治療を説明できる。
5. 睡眠随伴症群、睡眠関連運動障害群について症候・検査所見・治療を説明できる。
6. 睡眠障害の演習問題を解き正解できる。

キーワード：

ユニット：

概日リズム睡眠障害(circadian rhythm sleep disorders)、睡眠随伴症群(parasomnias)

★コアカリ：

D-15-2) 不眠(insomnia)

国試出題基準：

睡眠時無呼吸症候群(sleep apnea syndrome)、ナルコレプシー(narcolepsy)、レム睡眠行動障害 REM(sleep behavior disorder)

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p397-411 第17章

予習：

指定された教科書の p397-411 第17章「睡眠-覚醒障害」に目を通しておく。(30分)

復習：

講義配布資料を見直しておく。(30分)

精神 22：物質関連障害および嗜癖性障害

日時：6月12日(木) 2時限

担当者：山下 博栄(神経精神科・心療内科)

内容：

1. 精神作用物質使用に伴う精神及び行動の障害の疾患概念を説明できる。
2. 精神作用物質の有害な使用(乱用)と依存症候群について説明できる。

3. 精神作用物質使用に伴う急性中毒について説明できる。
4. 精神作用物質使用に伴う依存症と離脱（退薬）症状について説明できる。
5. 精神作用物質使用に伴う精神病性障害と後遺症について説明できる。

キーワード：

ユニット：

アルコール依存症、急性中毒、有害な使用（乱用）、依存症、離脱症状

★コアカリ：

D-15-3

国試出題基準：

Ⅱ-1-E

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p413-449

予習：

指定された教科書の p413-449 に目を通しておく。(30 分)

復習：

指定された教科書の p413-449 を再読する。(30 分)

精神 23：認知症

日時：6月12日（木） 3 時限

担当者：新井 久稔(神経精神科・心療内科)

内容：

1. 認知症の定義が説明できる。
2. アルツハイマー型認知症の特徴が説明できる。
3. アルツハイマー型認知症の治療、対応が説明できる。
4. 4大認知症の特徴の違いが説明できる。
5. いわゆる治療可能な（可逆性）認知症などが挙げられる。

キーワード：

ユニット：

脳機能の局在、認知症の概念、認知症の原因

★コアカリ：

D-15-3 認知症の診断と治療

国試出題基準：

アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p451-484

予習：

指定された教科書の p451-484 に目を通しておく。(30 分)

復習：

指定された教科書の p443-478 と講義で知り得た知識の整理。(30 分)

精神 24：てんかん

日時：6月13日（金） 5 時限

担当者：渡邊 さつき(神経精神科・心療内科)

内容：

1. てんかんがどのような疾患であるか説明できる。
2. てんかんと鑑別すべき疾患を列举できる。

3. てんかん発作を列挙できる。
4. てんかんの治療について説明できる。
5. てんかんで出現しうる精神症状を説明できる。

キーワード：

ユニット：

てんかん国際分類、抗てんかん薬、てんかん性精神病、心因性非てんかん発作、失神

★コアカリ：

D-15-2 意識障害

国試出題基準：

器質性精神病

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p485-496

参考書：

◆ てんかん学ハンドブック 第5版 医学書院

予習：

指定された教科書の p485-496 を読む。(30 分)

復習：

講義資料を確認する。(30 分)

精神 25：パーソナリティ症と精神科で対応することのある他の疾患および状態

日時：6月17日（火） 1 時限

担当者：安田 貴昭(総セ 神経精神科)

内容：

1. パーソナリティ症の概念を説明できる
2. パーソナリティ症の3つのクラスターを挙げ、それぞれを概説できる
3. 境界性パーソナリティ症の特徴(DSM5-TRにおける診断項目)を5つ以上挙げることができる
4. 衝動制御症群について、例をあげながら概念を説明できる
5. 「性別」の4つの側面について、それぞれの違いと概念を説明できる

キーワード：

ユニット：

パーソナリティ症、境界性パーソナリティ症、衝動制御症、性別異和

★コアカリ：

D-15-3 ⑩

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p497-511, p513-521

予習：

指定教科書の該当ページを、興味を引かれる箇所に印をつけながら一通り読んでおく。

復習：

予習で印をつけた箇所を読み返し、理解を深める。

精神 26：精神疾患の原因となりうる医学疾患・薬剤・化学物質

日時：6月23日（月） 4 時限

担当者：大西 秀樹(国セ 精神腫瘍科)

内容：

1. 器質性精神障害の定義が説明できる。
2. 脳機能からみた「意識」とは何か説明できる。

3. せん妄とは何か説明できる。
4. 医学疾患によるそれぞれの精神症状の特徴を説明できる。
5. 精神疾患の原因となりうる医薬品・化学物質が説明できる。

キーワード：

ユニット：

コンサルテーション・リエゾン

★コアカリ：

D-15-2, D-15-3 意識障害、症状精神病

国試出題基準：

せん妄、器質性精神障害、症状精神病

教科書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 p523-545

予習：

指定された教科書の p523-545 に目を通しておく。(30 分)

復習：

指定された教科書の p523-545 と講義で知り得た知識の整理。(30 分)

精神 27：脳科学と精神医学

日時：6月23日（月） 5時限

担当者：桑原 斉(神経精神科・心療内科)

内容：

1. 精神疾患が脳の病であることを理解する
2. ゲノムと環境の相互作用でつくられる脳を理解する
3. 精神疾患のゲノム研究、脳研究の成果を理解する

キーワード：

ユニット：

精神

★コアカリ：

D-15-1

国試出題基準：

なし

参考書：

◆ 標準精神医学 第9版 医学書院 P29-47

予習：

指定された教科書の該当ページに目を通しておく(30 分)

復習：

指定された教科書の該当ページを再読する(30 分)